



2026年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2025年8月8日

アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

目 次

02	第1四半期 連結・単体業績一覧
03	[連結] 第1四半期 決算のポイント
04	[単体] 第1四半期 決算のポイント
05	[単体] 第1四半期 売上・利益の状況
06	[単体] 第1四半期 カテゴリー別売上高比率及び増減
07	[単体] 第1四半期 利益変動要因（対前年比較）
08	[単体] 第2四半期以降の見通し
09	[単体] 中期的成長戦略
10	[子会社] 第1四半期 決算のポイント
11-12	[グループ別] 第1四半期 売上高（対前年比較）
13-14	[グループ別] 第1四半期 営業利益（対前年比較）
15-17	[アジア・欧州・その他] 海外グループ会社の状況
18	2026年3月期計画
19-24	過去5年 推移データ
25	アリアケグループ「世界7極体制」
	〔補足資料〕 決算のポイント

第1四半期（4月－6月）連結・単体業績一覧

項目	実績	前年	前年増減	前年比
連結売上高	154.1	152.9	+1.2	+0.8%
連結営業利益	26.1	22.2	+3.9	+17.5%
連結経常利益	32.6	29.1	+3.4	+11.8%
連結純利益	23.5	18.1	+5.4	+29.6%
単体売上高	111.2	108.3	+2.9	+2.7%
単体営業利益	18.0	15.1	+2.9	+19.4%
単体経常利益	29.2	24.8	+4.4	+17.7%
単体純利益	20.4	17.4	+3.1	+17.6%

※単位は億円 四捨五入して記載

[連結] 第1四半期 決算のポイント

□ 売上高・営業利益

増収、増益。

連結売上高：154.1億円（対前年＋1.2億円 ＋0.8%）

営業利益：26.1億円（対前年＋3.9億円 ＋17.5%）

営業利益率：16.9%（対前年＋2.4p）

利益改善は進むも、海外子会社の減収で売上増は僅かにとどまる。

□ 経常利益・純利益

経常利益：32.6億円（対前年＋3.4億円 ＋11.8%）

純利益：23.5億円（対前年＋5.4億円 ＋29.6%）

為替差益の増などにより、経常利益、純利益ともに2桁の伸び。

□ 2026年3月期計画（変更なし）

連結売上高：671億円 連結営業利益：122億円 連結営業利益率：18.2%

[単体] 第1四半期 決算のポイント

□ 売上高・営業利益

増収、増益。

売上高：111.2億円（対前年＋2.9億円　＋2.7％）

営業利益：18.0億円（対前年＋2.9億円　＋19.4％）

営業利益率：16.2％（対前年＋2.3 p）

価格改訂効果含めメーカーが好調、外食の伸びはやや鈍化し微減。CVS不調。

価格改訂、コストダウン効果により営業利益率がさらに改善。

□ 経常利益・純利益

経常利益：29.2億円（対前年＋4.4億円　＋17.7％）

純利益：20.4億円（対前年＋3.1億円　＋17.6％）

為替差益・配当金など増。

□ 2026年3月期計画（変更なし）

売上高：490億円　営業利益：84億円　営業利益率：17.2％

[単体] 第1四半期 売上・利益の状況

□売上高

- 外食業界の成長鈍化、期間限定メニューの改廃などにより売上減となる。（－1.6％）
- 加工食品メーカー向けは節約志向、コメ代替需要などで堅調な需要と値上げ効果もあり8.4％伸長
- CVS向けは、大手CVSの売上停滞もあり、売上減。（－1.0％）
- 量販向けB2B2C含むCVS・中食合計では＋3.7％と増。

□営業利益

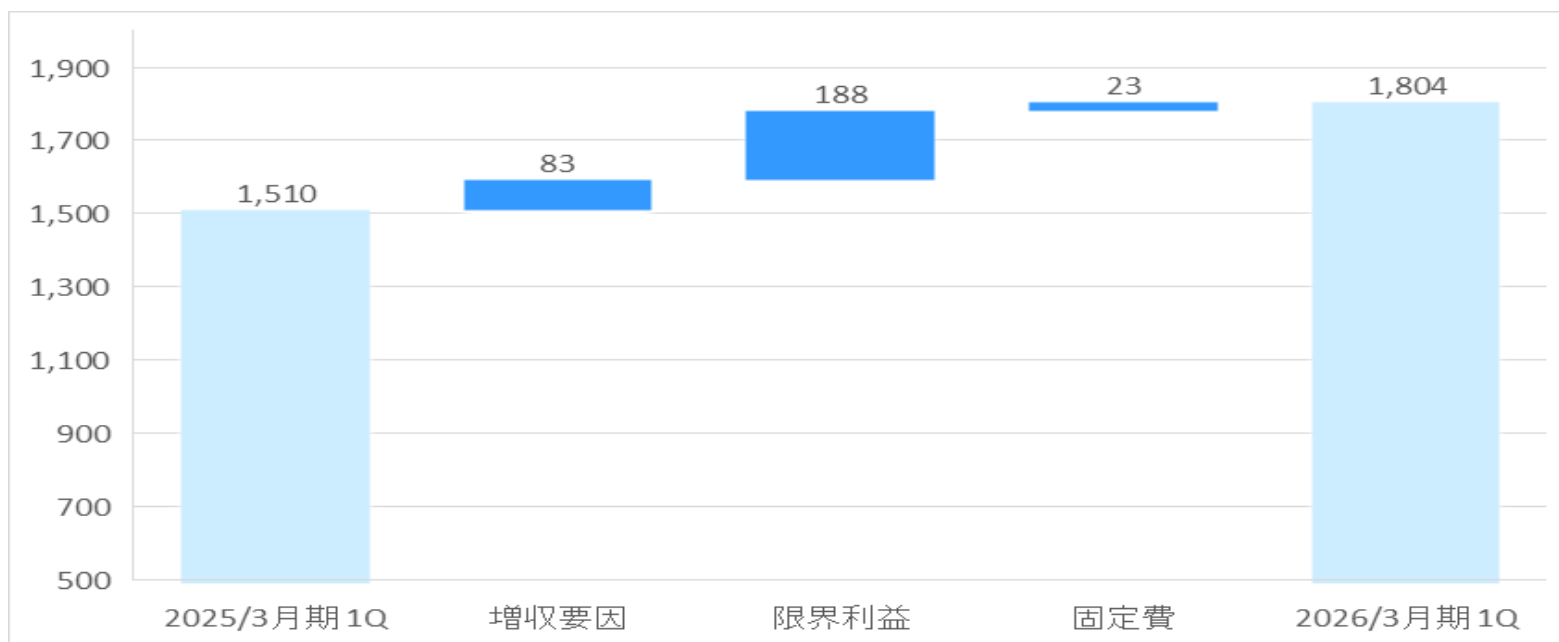
- 原料、包材、運賃値上がりなど、利益悪化要因は前年比でわずかに緩和傾向。
- 工場におけるVA、工程改善によるコストダウン、営業における利益改善（価格改訂、リニューアル）は順調に進捗。
- 2024年度の価格改訂効果持ち越しもあり、営業利益率は16.2％と対計画＋0.6p、対前年＋2.3pと改善。
- 1Qの販売単価は対前年＋3.2％、数量の伸びは－0.5％。

[単体] 第1四半期 カテゴリー別売上高比率及び増減

カテゴリー	売上高比率	前年比増減
食品メーカー	21.0%	+8.4%
外食	41.4%	-1.6%
CVS・中食	37.0%	+3.7%
輸出(台湾)	0.6%	+8.9%
合計	100%	+2.7%

[単体] 第1四半期 利益変動要因（対前年比較）

■ **営業利益 1,803百万円** 前年比294百万円（+19.4%） （単位：百万円）



■ **経常利益 2,918百万円** 前年比 +440百万円（+17.7%）

（単位：百万円）

増加要因	営業利益増加	294
	受取配当金他	232
減少要因	デリバティブ評価損の増	△ 86
	合計	440

[単体] 第2四半期以降の見通し

□売上高

- 業界全体の伸びは鈍化のきざしがあるが、市場規模が大きく、インバウンド、人手不足需要などが見込める外食に注力。特に地力がある大手外食をフォローする。さらに、海外進出支援、自社製品の輸出拡大も行う。
- 祖業であるエキス調味料（加工食品メーカー向け）は本社営業部門を独立させ再注力。メーカー向けにも差別化製品の提案を実施して売上拡大を図る。
- CVS向けは、当社の強みを活かした素材系製品の提案、CVSの課題解決提案。
- 家庭内調理の減少、ソロ世帯の増加を踏まえ、スーパー、惣菜用調味料の拡販。
- 大豆で作ったマヨネーズタイプ、アニマルフリーラーメンなどプラントベース製品の拡販。

□利益改善

- 利益改善計画を実行し、年度計画以上の営業利益率達成を目指す。
- 工場におけるVA、工程改善によるコストダウン、営業における利益改善（価格改訂、リニューアル）は継続して進行。低利益率品の値上げを実施。
- 工場のコストダウン計画約20億円/年、営業の利益改善15億円/年（内価格改訂12億円）

[単体] 中期的成長戦略

- 食品業界全体は、人口減により緩やかに成長が鈍化すると考えられる。当社の強みを活かし、エキス調味料を主体とした川下製品を含む既存事業の更なるシェア拡大と、隣接・飛地領域への事業展開を行う。
- 成熟期の外食産業は競争が激化すると予想され、ヒト・モノ・カネ・データーなど資源に勝る大手外食のシェアが拡大すると考えられる。注力すべき顧客を選択し、効率的な営業を行い売上増を図る。特に節約志向下でも消費が安定しているラーメンの成長企業は重要顧客との認識。
- 提案営業を推進し、顧客価値の向上につながる価格以上の価値のある製品を提案する。
- 高齢化が進むことで健康志向が更に高まり、健康で安全性の高い天然素材を活かした当社製品の存在価値も高まる。健康や機能性を意識した製品の開発を進める。
- 家庭内調理の減少、ソロ世帯の増加、人手不足などによりHMR（ホームミールリプレイスメント）食品や業務用製品の需要は高まる。加工食品、冷凍食品、スーパー惣菜などの高品質化が進み、食品メーカーやスーパー（バックヤード、CK、PC）の当社製品の使用機会が増加すると思われるので営業を強化する。
- 国内エキス調味料業界は、畜産原料の枯渇、設備老朽化、人手・後継者不足など事業継続リスクが高まると考えられる。海外ネットワークを活用し、安定的・圧倒的な供給能力と品質・価格でシェア拡大を図る。
- 畜産原料に拘らず、大豆やその他植物性原料、水産資源などを活用し、あらたな事業領域を開拓する。（大豆利用製品、ペットフードなど）

[子会社] 第1四半期 決算のポイント

□ 売上高・営業利益

子会社は、減収、増益。中国、台湾の景気後退が影響。

子会社売上高：42.9億円（対前年－1.7億円 －3.9%）

子会社営業利益：8.0億円（対前年＋0.96億円 ＋13.5%）

子会社の営業利益率18.7%（対前年＋2.9p）

中国、台湾が消費低迷により、減収、減益。営業利益率は維持。

フランスは欧州内の売上が減り、日本向けが増え比率が上り、減収、減益。

ベルギーは利益改善が進み増収、増益もわずかに営業赤字。

オランダは堅調に増収、増益。

[グループ別] 第1四半期 売上高 (対前年比較)

※子会社は連結調整後

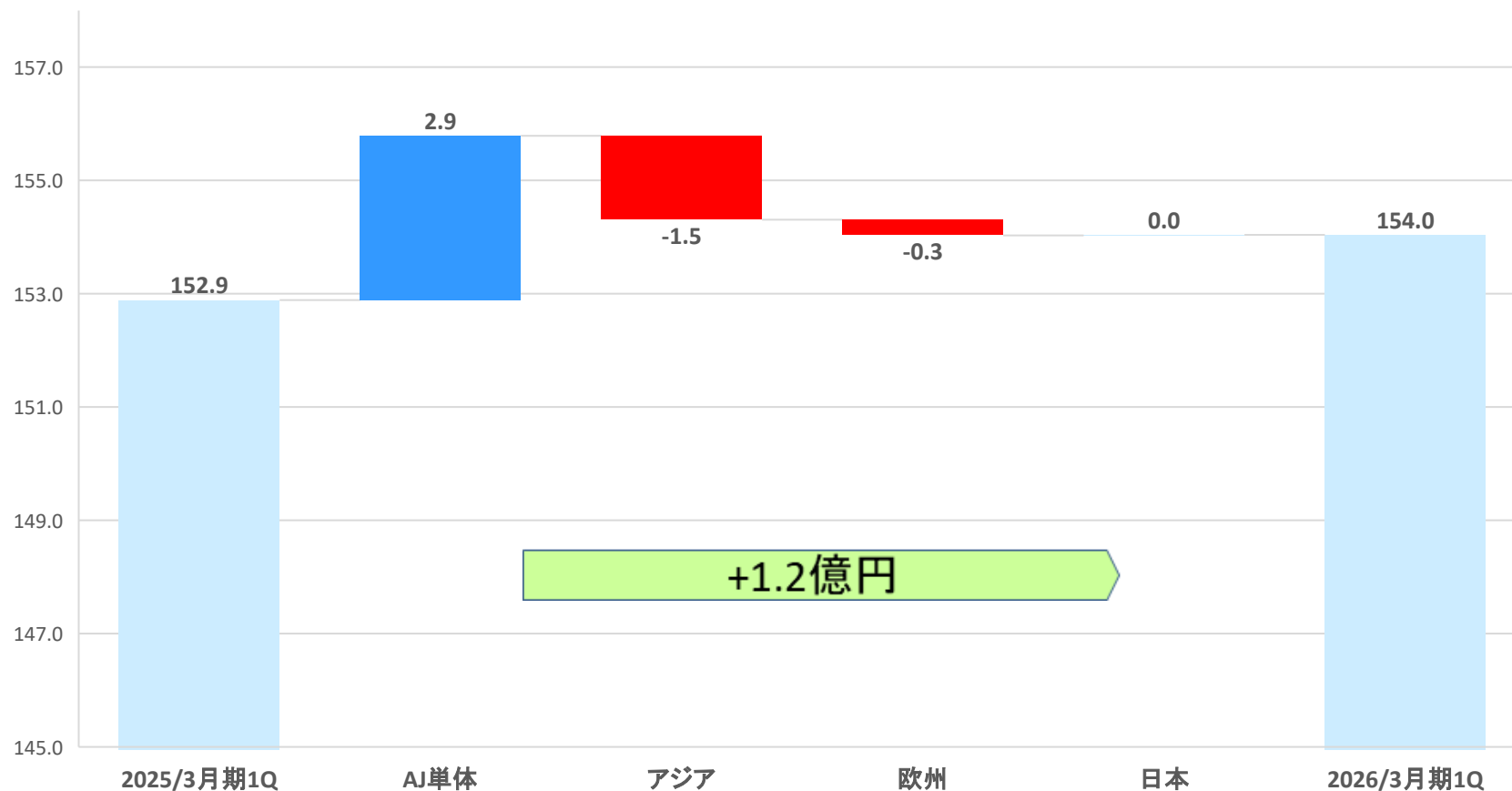
(単位：億円)

	2026/3期 1Q (A)	2025/3期 1Q (B)	増 減 (A-B)		
				%	為替中立
アリアケジャパン	111.2	108.3	2.9	2.7%	-
子会社 計 ※	42.9	44.6	△ 1.7	△ 3.9%	△ 2.3%
ア ジ ア	22.8	24.2	△ 1.4	△ 6.1%	△ 3.7%
欧 州	19.3	19.6	△ 0.3	△ 1.4%	△ 0.7%
日 本	0.8	0.8	0.0	1.2%	-
連結	154.1	152.9	1.2	0.8%	1.2%

EUR	162.08	163.24	△ 1.16
人民元	20.59	20.83	△ 0.24
台湾ドル	4.51	4.74	△ 0.23
ルピア	0.0091	0.0096	△ 0.0005

[グループ別] 第1四半期 売上高（対前年比較）

（単位：億円）



[グループ別] 第1四半期 営業利益（対前年比較）

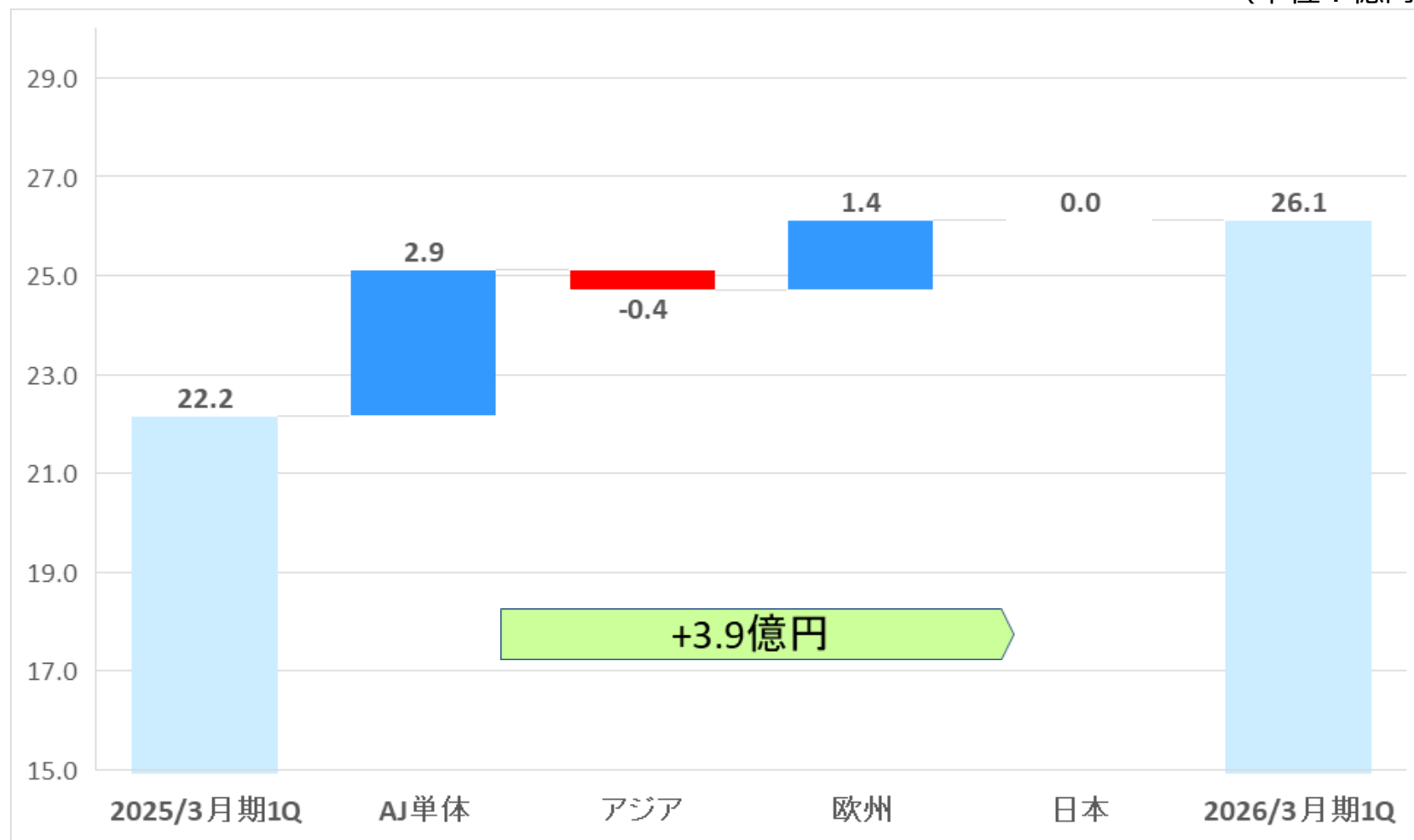
※子会社は連結調整後

（単位：億円）

	2026/3期 1Q (A)	2025/3期 1Q (B)	増 減 (A-B)		
				%	為替中立
アリアケジャパン	18.0	15.1	2.9	19.4%	-
子会社 計 ※	8.0	7.0	1.0	13.5%	15.9%
アジア	5.4	5.8	△ 0.4	△ 7.6%	△ 5.0%
欧州	2.5	1.1	1.4	122.0%	123.6%
日本	0.1	0.1	0.0	0.0%	-
連結	26.0	22.1	3.9	17.5%	18.3%

[グループ別] 第1四半期 営業利益 (対前年比較)

(単位：億円)



[アジア] 海外グループ会社の状況

□中国

- 前期下期からの景気後退により、1Qが食品業界全体が低迷し、前年、計画を下回る。減収となるも、コストダウン、経費節減などで営業利益率を維持。
- 今後、加工食品メーカー、外食への新規採用品、B2C製品が決定しており、下期に向けては対前年増収となる見込み。

□台湾

- 今期に入り特に4月以降、景気後退、消費減が鮮明になり、前年、計画を下回る。ラーメン業界は顧客内でのシェア争奪戦となり競争激化、飽和感が出てきた。減収となるも、コストダウン、経費節減などで営業利益率を維持。
- 2Q以降も大きく状況は変わらない見通しで、火鍋、うどん、ファミレスなどラーメン以外の外食、加工食品メーカー向けの営業に注力する。

□インドネシア

- 日本向けが増え、ASEAN輸出が減。インドネシア国内は外食、メーカーとも好調も、全体で対前年減収。計画は上回る。
- 日本向け増による固定費吸収、コストダウン、価格改訂などで利益改善。対前年下回るも計画超の営業利益、営業利益率となる。

[欧州] 海外グループ会社の状況

□フランス

- 日本（AJ）向けの輸出が増加、一方でEU顧客の受注減により減収。
固定費吸収、ユーティリティコスト改善などにより現地ベースでの営業利益は大幅に改善したが、連結調整により減益となる。（未実現利益の増加）
- AJ向け輸出は安定継続、EU向けは新規顧客開発でカバーを目指す。
スプレー品の稼働（EU内、AJ向け）が始まり、今後EU圏内での新規採用を目指す。

□ベルギー

- 日本（AJ）向け輸出増加、EU顧客は現状維持で連結調整後の売上は微増。
固定費吸収、ユーティリティコスト改善などにより対前年大幅な利益改善。
- AJ向け輸出は安定継続。EU顧客の売上は、下期にかけて増加見込み。日本食特にラーメンのニーズ多く、今後伸長可能性大。UHT製品は、パリ中心に拡販中も長期戦で対応。
- 開発販売体制強化 R & D、B2C販売マネージャー増員済、フードサービス販売マネージャー増員予定。

□オランダ（ヘニングセン）

- EU内インダストリー中心に売上好調で増収、増益。今期内引き続き好調維持。

[その他] 海外グループ会社の状況

■米国市場への再進出

- 2024年7月1日Ariake U.S.A.,Inc.を設立。資本金1000万\$。
東海岸バージニア州チェサピーク市に53000m²の候補地を選定。
土地・不動産DD及びFS進行中。
- 2025年度土地購入・設計開始～2026年度着工、2028年度稼働開始予定。

■中国日照有明の抹消

- 2025年7月2日日照有明を抹消。
現段階で青島有明の立ち退き要求は撤回。
新工場建設予定地を山東省内で検討中。
- 中期3年計画2027年度（2028年3月期）まで、既存青島有明内の設備増強で対応可。

2026年3月期計画

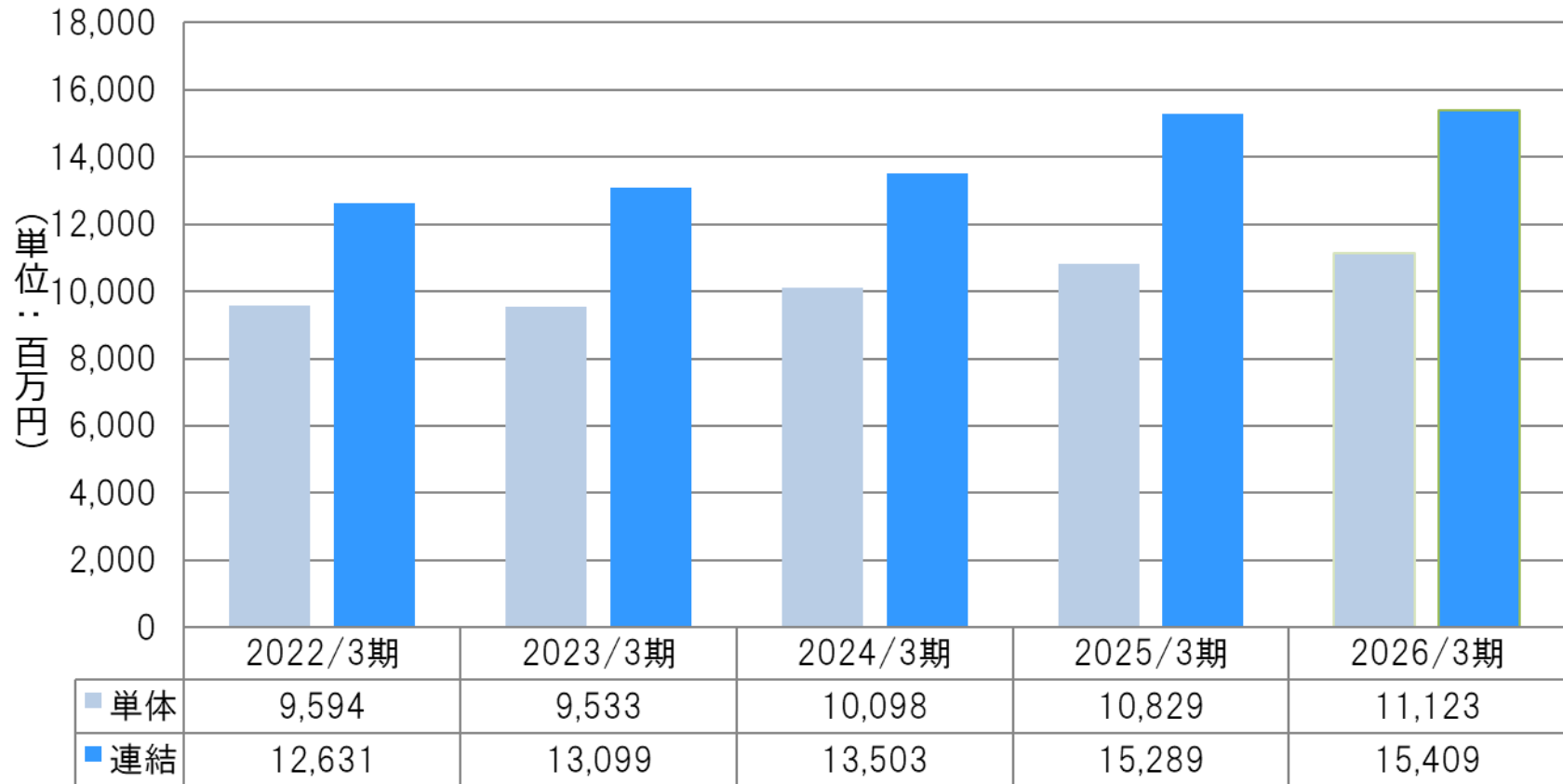
※子会社は連結調整後

(単位：億円)

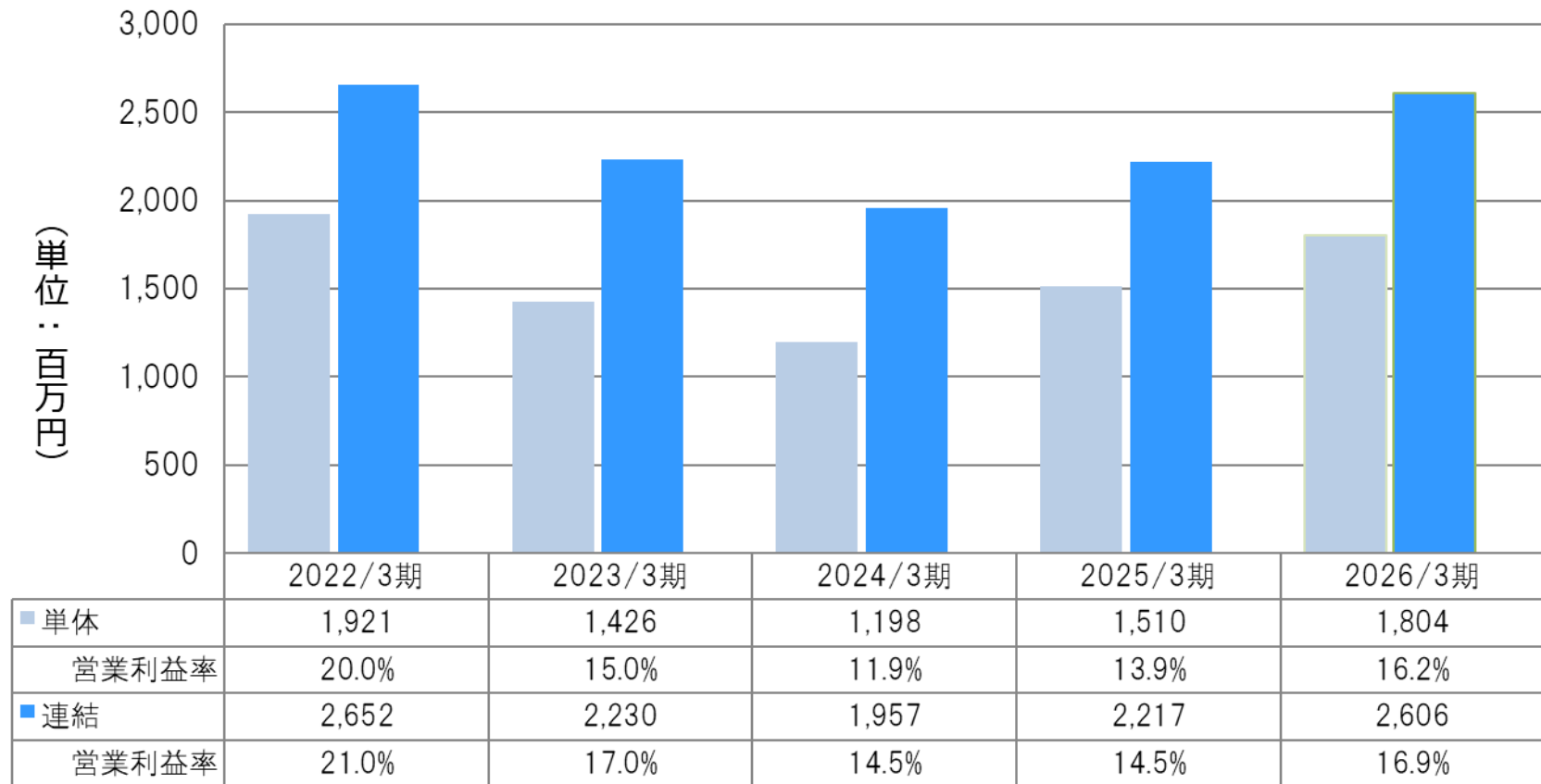
	売上高			営業利益		
	2026/3期 計画 (A)	2025/3期 実績 (B)	増減 A-B	2026/3期 計画 (A)	2025/3期 実績 (B)	増減 A-B
アリアケジャパン	490	475	15	84	78	6
子会社 計 ※	181	179	2	38	33	4
アジア	106	103	3	27	25	2
欧州	73	73	0	11	8	3
日本	3	3	0	0	0	0
連結	671	654	17	122	111	11

EUR	162.08	164.92	△ 2.84
人民元	20.59	21.67	△ 1.08
台湾ドル	4.51	4.84	△ 0.33
ルピア	0.009	0.010	△ 0.001

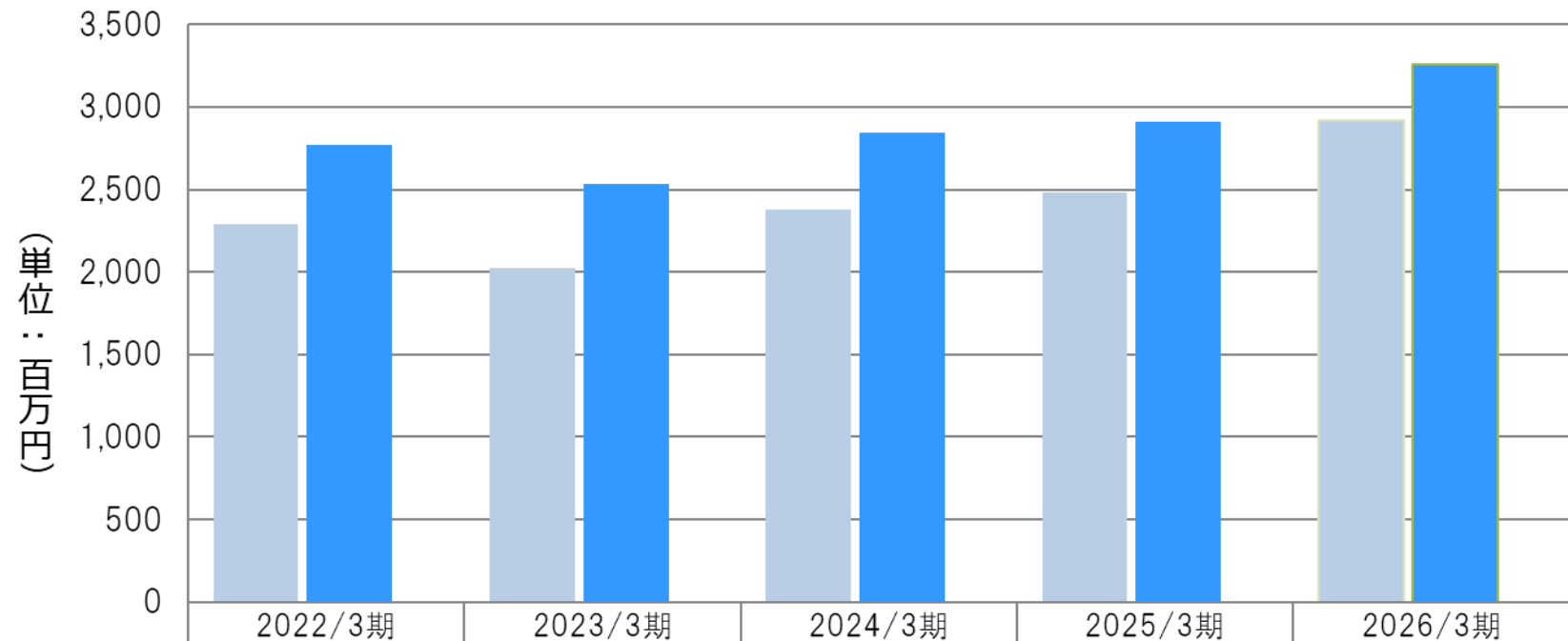
第1四半期 売上高の推移（単体・連結）



第1四半期 営業利益の推移（単体・連結）

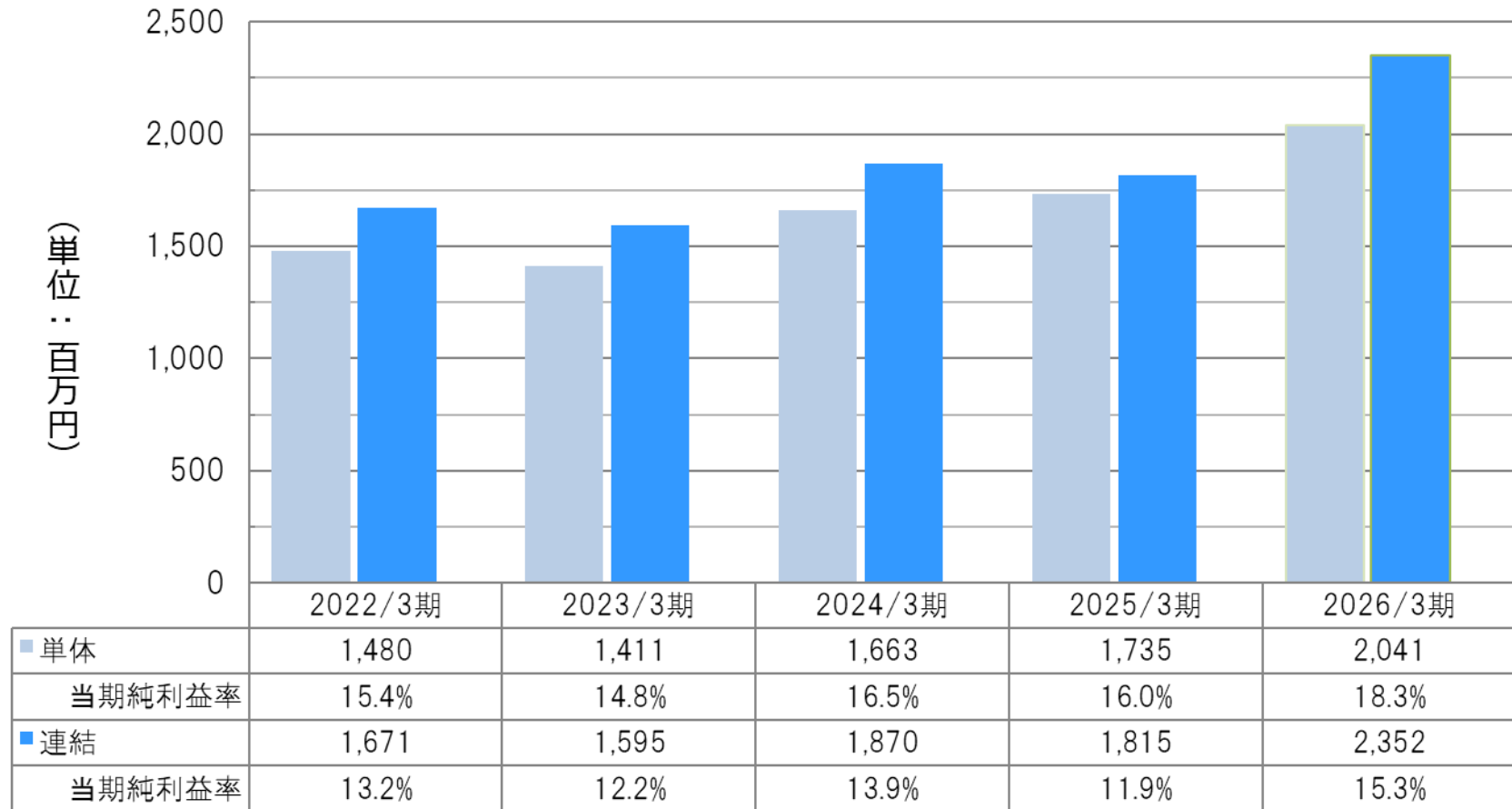


第1四半期 経常利益の推移（単体・連結）

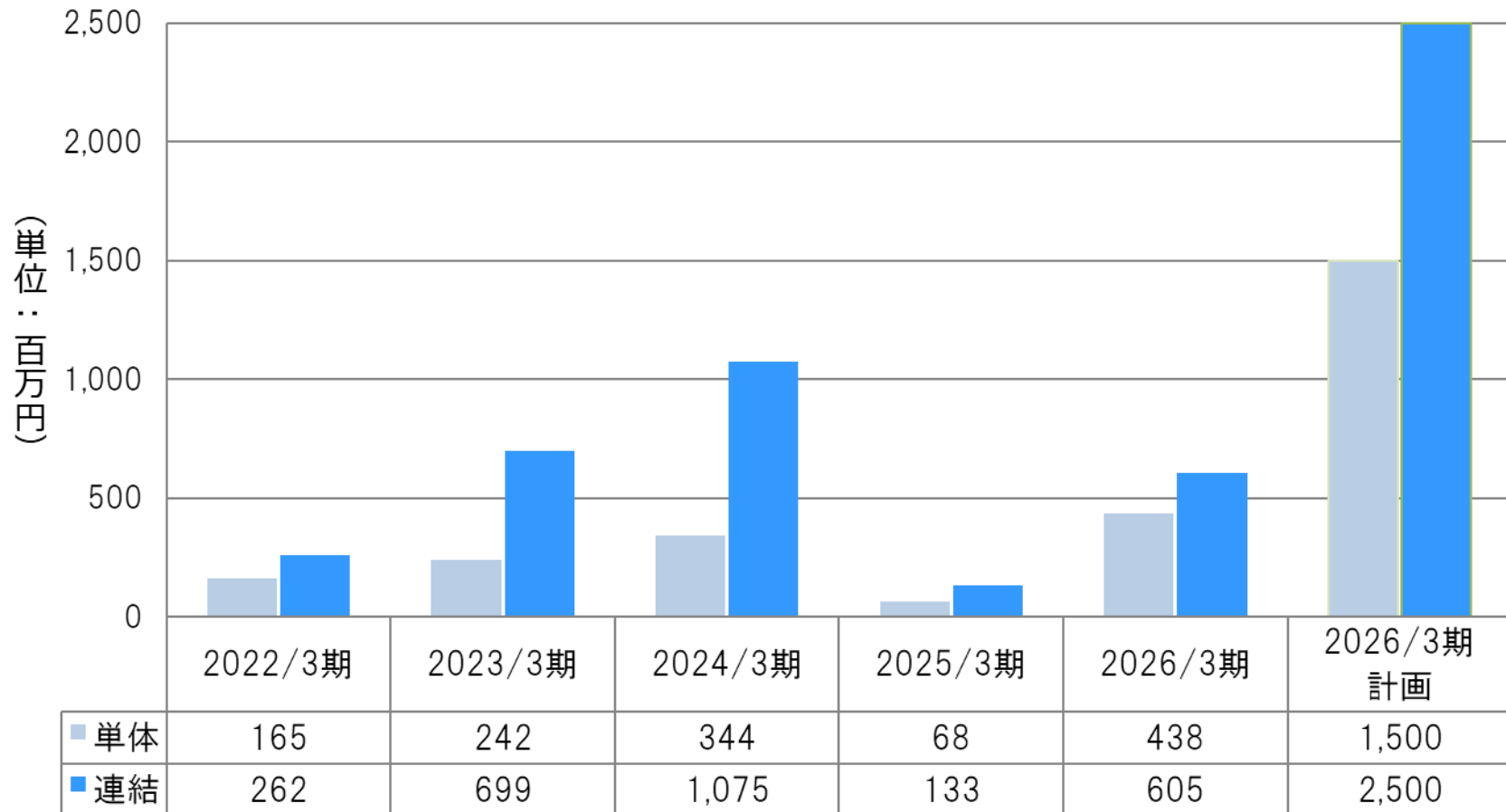


	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
■ 単体	2,287	2,026	2,381	2,479	2,918
経常利益率	23.8%	21.3%	23.6%	22.9%	26.2%
■ 連結	2,768	2,530	2,844	2,912	3,256
経常利益率	21.9%	19.3%	21.1%	19.0%	21.1%

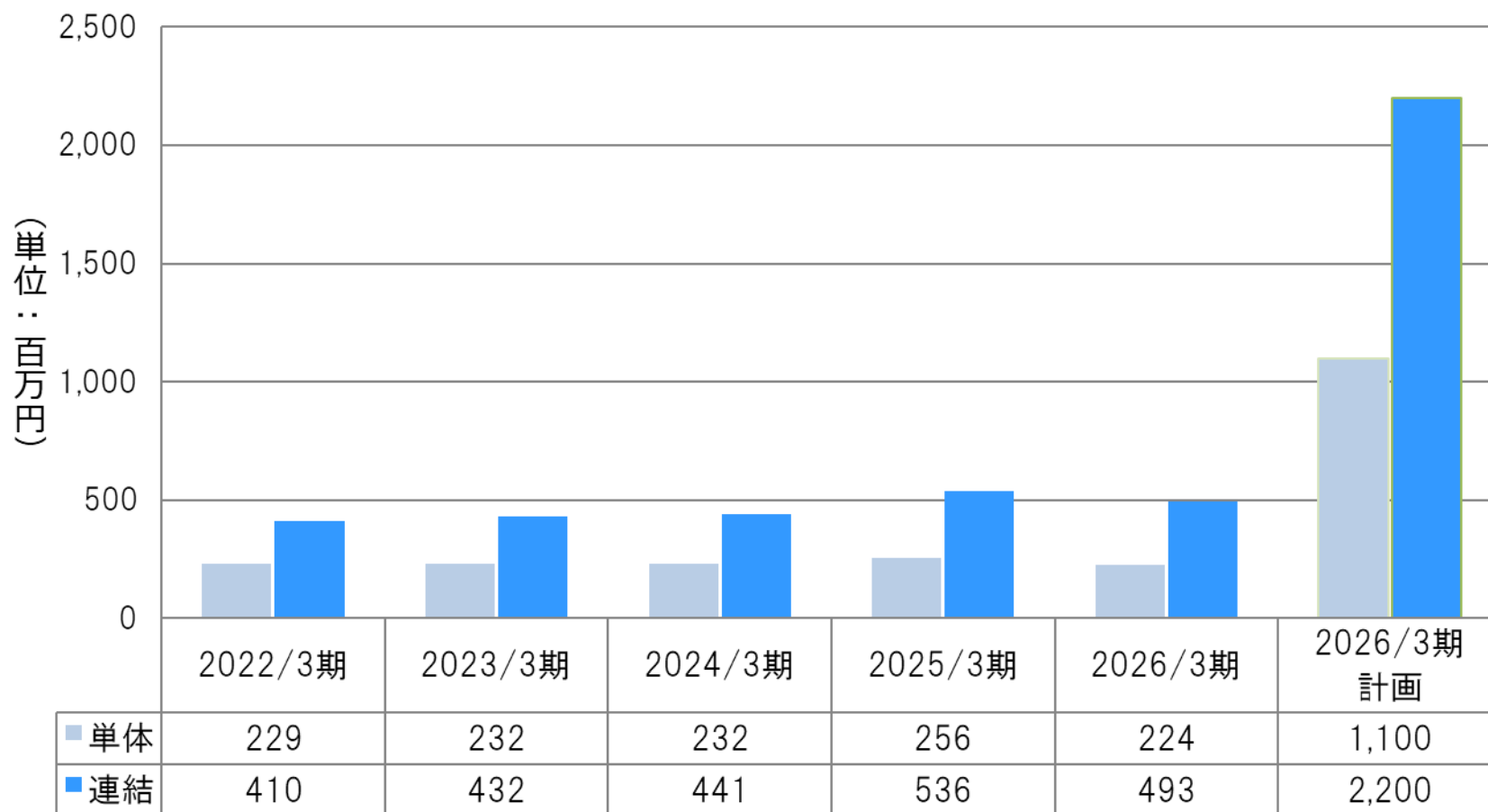
第1四半期 親会社株主に帰属する 当期純利益の推移（単体・連結）



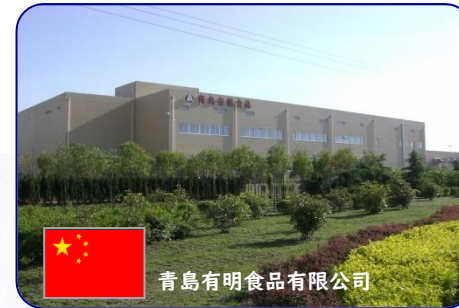
第1四半期 設備投資の推移（連結・単体）



第1四半期 減価償却費の推移（連結・単体）



アリアケグループ「世界7極体制」



Henningesen
Nederland B.V.

Ariake Europe NV

F. P. Natural
Ingredients SAS

青島有明食品有限公司

アリアケジャパン株式会社

台湾有明食品股份有限公司



PT. Ariake Europe Indonesia



- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。